

膜分離活性汚泥法の採用

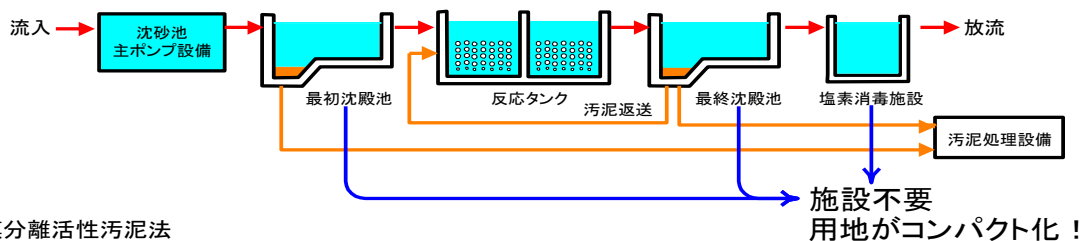
概要：水処理に新技術を用いて、従来の活性汚泥法の処理水質以上の水質（高度処理）と施設のコンパクト化を実現

(従来) 高度処理に広い敷地面積が必要 ⇒ (新) 従来よりも狭い敷地面積で可能

効果：通常、高度処理には広い敷地面積が必要であるが、新技術（膜分離活性汚泥法）を採用することで、沈殿池、消毒施設の省略が可能となり、施設のコンパクト化、敷地面積の縮小化が可能となるため、コスト改善となる。

■日本下水道事業団全体で建設費を、1,567百万円から1,396百万円に改善。
(改善額 171百万円、改善率 約10%)

従来の活性汚泥法



膜分離活性汚泥法

